



問合せ先：調布市協働推進課
042-481-7036

Happy Times



列になって同時に苗を植える

昨年末、布田小学校体育館前の中庭に突如、二列に並ぶ排水弁が出現した。これは昨年春から体育館の大規模改修と同時並行に行っていた工事で、

同体育館が災害時に避難所として利用される際の簡易トイレ用の排水弁で、体育館南側壁にはその使用法が掲示されている。上のトイレは一般用四

マン設置工事完了 布田小学校体育館前中庭

台、車いす用二台の合計六台が本年度三月までに防災備蓄倉庫に納入予定となっている。

市の説明によると、調布市内全小中学校二十八校中、既に二十四校が同工事を完了済み、来年度（令・四）中に全校への設置が完了予定だそうです。

具体的な使用方法については、今後、学校側と調整

【二面に続く】

多摩川街路樹 さくらの木 ワークショップ

8月29日、10月3日、11月14日



樹木医の話を聞く参加者の皆さん

【二面に続く】

昨年三回にわたり、多摩川桜堤通りの老木化したサクラの木の街路樹についてのワークショップを開催した。これは、調布市が街路樹管理計画を策定する際に地域住民の意見を反映させたいという要請を当地区が受けて実施したものです。

第一回目（8月29日）

は地区協関係者と布田小PTA関係のあわせて九



チョウゲンボウ（ハヤブサ科）
多摩川・2020/11 長谷川克正

「新 型」

一八五三年に黒船がやってきてから新明治政府が文部省を初めて設置したのが一八七二年。昭和に入って戦争が終わるのが昭和二十年。焼野原の街から東京オリピックが開催されたのが一九六四年。すべて二十年間です。その間の変化はその時代に生きた人間のよ

くも悪くも又想像を超える英知と覚悟と行動力によって今日までの歴史が達成されてきました。

新型コロナウイルスが現代社会にかつて経験のない危地を招いています。自分なりに歴史の法則を見れば二十年間かけて社会がすっかり変わっていくその入口に立ったといえるのではないのでしょうか。

真つ只中にいる私たちは先人達が生き抜いてきたように、知恵と勇気と情熱を持って、新しい働き方、新しいコミュニケーション、新しい生き方に取り組むことを指南されているような気がします。

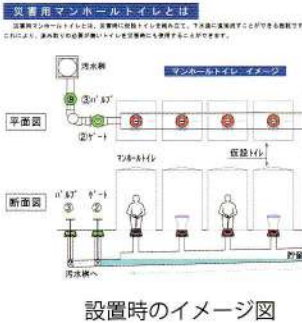
皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしく
お願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会

会長 依田 耕児

して素早く設置運用ができるような訓練を防災訓練などを通じて協同で定期的に行い、いざという時の備えをする予定です。トイレの管理は最重要課題なので、今後この紙面で詳細をお知らせしていきます。

また新型コロナウイルス対策を考慮した避難所収容一覧が公表されています。



弁蓋の取り方

感染症考慮時における避難所収容人員

No	避難所名 ★震災時 ●風水害時	地域防災計画上の 収容人数	感染症考慮時の 収容人数
1	★● 第一小学校	505人	417人
2	★● 第二小学校	418人	390人
3	★● 第三小学校	398人	446人
4	★● 八雲台小学校	410人	478人
5	★● 富士富士小学校	400人	425人
6	★● 滝坂小学校	404人	328人
7	★● 深大寺小学校	421人	350人
8	★● 上ノ原小学校	401人	493人
9	★● 石原小学校	437人	383人
10	★ 若葉小学校	405人	381人
11	★● 緑ヶ丘小学校	386人	202人
12	★ 染地小学校	413人	304人
13	★● 北ノ台小学校	410人	487人
14	★ 多摩川小学校	390人	418人
15	★ 杉森小学校	430人	426人
16	★ 飛田給小学校	413人	325人
17	★ 柏野小学校	469人	420人
18	★● 国領小学校	708人	485人
19	★ 布田小学校	733人	364人
20	★ 調和小学校	717人	485人
21	★● 彌布中学校	710人	524人
22	★● 神代中学校	1276人	775人
23	★ 第三中学校	1538人	599人
24	★ 第四中学校	518人	344人
25	★ 第五中学校	485人	599人
26	★● 第六中学校	497人	264人
27	★ 第七中学校	492人	275人
28	★● 第八中学校	524人	300人
29	★ 大町スポーツ施設	405人	89人
30	● たづくり	1000人	369人
31	● グリーンホール	1500人	742人
32	● 西部地域福祉センター	55人	24人
33	● 総合福祉センター	500人	67人
34	● 西橋布体育館		95人
35	● すこやか	300人	61人
★	合計（震災時）	15713人	11776人
●	合計（風水害時）	11660人	8105人

大雨の影響で浸水が予想される場合に、各家屋用に自

選んで合計6カ所設置したうちの一つです。カバーを外すと、鍵のかかかっていないカゴの中に合計八十ヶの土のうが収納されています。また、同じく布田小の北側裏門の正面に土のうステーションがこちらにも突然設置されました。これは、多摩川沿いの浸水の起きやすい場所を選んで合計6カ所設置したうちの一つです。カバーを外すと、鍵のかかかっていないカゴの中に合計八十ヶの土のうが収納されています。



土のうステーション



(上) カバーのかかった状態 (下) 80ヶ収納されている

由に取って持って行っていいそうで、もし足りなければ連絡ください、と市は説明してくれました。当地区協としては、防災訓練時にうまく活用してその存在と使い方をPRしたいと考えています。



上から俯かんしてみると、

いろいろな種類のさくらの木の模型を使ってシミュレーション

市では、市内にある4カ所の桜並木について、令和四年度から順次、桜の木を更新を行っていく予定。どんな新しい街並みができるのか楽しみです。

理由なども次世代にはつきりわかるように残してほしい。」と、また同じく富塚千絵さんは、「樹木医の木を叩く場所によって老若がわかるという話に興味を引かれました。このような活動を通じて地域の人たちとの交流ができて良かった。」とそれぞれ感想を述べてくれました。

桜堤通りワークショップ

名が参加。まず最初に街路樹の老木化の現状を専門家の樹木医から実際の木を見ながら講義を受け、その後布田南部自治会館へ移動して、現状の課題や要望などの意見交換を行った。桜にかんする思いや、本来のあるべき姿、維持管理について参加者の地域への熱い思いを感じる活発な意見が多くあった。

三回ともPTAから参加した今利由紀さんは、「治道のかもめ自治会に所属しているので普段から関心が高いです。日頃感じていることなどを意見として言える場所があって大変いいと思う、今後の進め方や伐採する理由、新しい木の種類を選定する理由なども次世代にはつきりわかるように残してほしい。」と、また同じく富塚千絵さんは、「樹木医の木を叩く場所によって老若がわかるという話に興味を引かれました。このような活動を通じて地域の人たちとの交流ができて良かった。」とそれぞれ感想を述べてくれました。

調布 World Aid Team

地域の活躍びと

調布駅からバスに乗って品川通りを国領方面に向かうと、レンタカー屋さんを過ぎたあたりでガラス張りの小さなお店が目につく。季節ごとのカラフルな衣服がガラス越しに見えるので、現在の会員30名の中には、それを見ようとバスから降りて服を購入したのをきっかけに、活動に参加されるようになった方もいらっしゃるとのこと。このお店がボランティア活動団体「調布WAT」の活動拠点、リサイクルショップWATスペースなのだ。

「瓦林さんがボランティア活動を始めたのが、ちょうど30年前の一九九一年二月。その一カ月前に勃発した湾岸戦争に反対する平和運動として、当時の調布駅前噴水広場で行われたピースバザーを開いたところ、ご自分でも驚くほど品物が売れて、戦争で苦しんでいる人たちへの援助金を集めることができたことがきっかけだった。」

その後、ご自身や協力者の家に眠っている品物を持ち寄って青空バザーで販売し、その収益をアジアの女性と子供たちのための協力金とするという基本理念で、ワールド・エイド・チームの頭文字を冠して調布WATの活動が始まった。

しばらくは調布駅前広場で「WATリ



瓦林 紀子 さん

(かわらばやし のりこ)
～ 布田5丁目在住～



調布 WAT 代表

調布 WAT 活動紹介 →
(調布市市民活動支援センター WEB サイト)



「サイクルバザー」が活動の中心だったが、会員の中から常設店が欲しいという声を持ち上がり、最初のお店を国領四丁目に開いたのが一九九八年頃。そこでは地域のイベントに参加するなどして14年間営業を続けた後、現在の布田6丁目に移転して早8年になるという。

国領から布田へのWATスペース移転にあたっては、手ごろな物件が見つからないなど随分苦労したが、「ここまで続

けてきたのにやめてたまるか」というメンバー全員の気持ちを受けとめて頑張ったと笑う瓦林さん。

ここ一年ほどはコロナ禍で思うように行けないが、国内外を問わず支援先には必ず出向いて、実地を見るようにしているそうだ。お店の壁のあちこちに、海外の現地を訪ねた時に撮った子ども達の写真や、支援のお礼にと送って来た子ども達が描いた絵などが所狭しと貼ってあるのもWATスペースらしい。



昨年からのコロナの感染拡大は、活動にも大きく影響して、福祉まつりなどのイベントが全て中止になり、販売はこの店内のリサイクル品に限定している。そんな環境下で現在力を入れてるのが市民活動支援センターから紹介してもらった「ステイ・ホームボランティア」。

例えば昨年六月に、ステイホームしている日本の中高生から、自宅で使わずに眠っている鉛筆やボールペン、ノートなどを提供してもらい、東南アジアなどの子供たちに送った。また、英語を習い始めた市内中一の女子生徒には、英語の勉強を兼ねて絵本の翻訳に挑戦してもらった。

こうしたステイホーム・ボランティアに参加した中高生は、「ボランティア活動というと遠くに出かけて力仕事をするイメージしか無かったのに、こんなに気軽にできるボランティア活動もあるんだ」と喜んでくれたとのこと。

ボランティアの垣根を下げることでできた、満面の笑みで喜ぶ瓦林さんの笑顔がひとときわ若々しい。

(文・藤田秀雄)



品川通り沿いに面したお店



布田6-23-5
042-449-9074

Easy ランチパック スペシャル 配布 Day

ハッピー子ども食堂

これは、昨年と一昨年と続けて開催していたハッピー子ども食堂が、新型コロナウイルスの影響で開催ができなくなってしまう、そんな中でなんとか地域から元気をだしてもらおうような発信をしようという代替えの企画です。九月と十一月の二回実施し、述べ百余名の保護者の方にランチパックを渡すことができました。来場した川寄圭吾さん結奈さん親子は「食べ物がいっぱい入っていてうれしい



空間を広くとった受け渡し



開けて見るまでわからないぞ

(結)。地域の方との交流ができていい、子どもが地域の中で育っていると実感する(圭)。」同じく保護者の小山真世さんは、「子ども食堂が再開できるのが待ち遠しい。学校のある土曜日開催の子ども食堂は、学校が終わってお昼に友だちと一緒にご飯を食べに行けるというのが朝から楽しみにしていた。」とうれしいひとこと。山口由美さん拓海さん親子は「思ったよりボリュームがあり、子どもたちが土日に習い事があるので昼食の準備がさつとできて

大変助かる。」とのことでした。実際の申込みは、こくちーずというイベント申込みアプリを使いますので、詳細の募集要項などは地区協のホームページなどもご参照ください。現在多くの有志の方から食品の寄付をいただき、本年度中にあと二回の開催を予定しています。

多摩川 映画上映会

布田小 稲刈り

多摩川七丁目の桜丘睦会では昨年八月、三回にわたり、「サロン・ド・ムツミいきいきアクションプラン事業」と題して映画上映会を開催しました。これは「東京都地域の底力発展事業助成」を利用したもので、市のオリニピックの取り組みや災害



多摩川をバックに大スクリーン

時の炊き出し演習などを映画上映と一緒に行いました。一日は「銀河鉄道の夜」、十五日は「火垂るの墓」、十六日は「料

前号で田植えをお伝えした布田小の稲刈りが十一月に行われました。新型コロナウイルスの影響も減少しつつある中、当日はあいにくの小雨の天気で、春に田植えができなかった分、黄金色に穂をたれる稲を参加した六年生約70余名が元気いっぱい



東ね方を指導する石津副校長

刈ってくれました。予め精米したお米をもらい後日学校の給食に使って食べました。斉藤農園では、来年は田植えと稲刈りが両方できるような社会情勢になっているといいですね。子どもたちの笑顔を楽しみにしています、とのことでした。



稲穂の中に埋もれながら

理人一九六四年炎の東京オリニピック」。多摩川をバックにスクリーンが用意され、土手の階段に座って観覧しはじめる、真夏の蒸し暑さはどこへやら、海辺と勘違いするほどの涼しい風が心地よく感じられました。見学に来ていたハッピー子ども食堂料理長の谷合さんは、この東京オリニピック選手村の料理人も経験しており、その当時の思い出を映画の最後にお話してくれました。

運営委員募集中!

- ★年6回の運営委員会
 - ★防災教育の日 避難所訓練
 - ★地域の安全安心活動
- お近くの上記運営委員にお尋ねください

布田小地区ハッピータウン協議会
ホームページ

<https://happy-usako.jp>
スマホ対応で見やすくなりました



はっぴーなきずな

え? 1%は 100%? 何かを行うときどう実現できるか。あれこれ考えても可能性は低いから止めよう。こんな時必ず成功する方法。障害となる問題を「あみだくじ」に見立てて逆にたどり、そこから一つずつ解決していけば1%でも確率100%。如何?

(門傳良男)

ブチの地域猫2匹がこの寒空の下で「(調布市) 地域猫ボランティア」の助けを借りながらお互いが懸命に生きています。猫どうし、そして人間の互助、あらためて社会の絆の大切さを感じる今日この頃です。

(河江秀俊)